

瑞浪駅北地区複合公共施設基本計画【案】に対するご意見と市の考え方

- ・意見提出人数 18 人（内訳 市内 18 人、その他 0 人）
- ・意見数 38 件

いただいたご意見・情報について、市の考え方を次のとおり公表いたします。

番号	ご意見	市の考え方（修正内容）
1	瑞浪市に転居し4年経ちます。当地は山紫水明、風光明媚で私にとり住むにはうってつけの場所だと感じます。それ以上に人々の人情が厚く朝のウォーキング時も皆様笑顔で挨拶され素晴らしいと感じ自然と人々の心が融合した理想郷と感動する日々です。特に私の知と心の寄り拠となっている図書館は私の第2の故郷と言っても過言ではありません。私は東濃地区の図書館は全て知っていますが、受付けの方々の挨拶、応対、蔵書確認の際の親切且つ丁寧さは決して他にひけをとるどころか、全国図書館調査を実施しても金賞を受賞してもおかしくないと自負します。ところが今回この私にとり住居より近距離で庭といってもいい場所にあった図書館が移設されると聞き、天地がひっくり返る程の衝激を受けました。東濃厚生病院の移設も市民の3千名にも及ぶ署名を無視して断行されており、また今日も図書館の移設と相次ぐ、市長の悪政に怒りも限界に達しています。自民党の裏金政治の延長線上に瑞浪市政も存在していると市政の業者との癒着構造に疑問をもちます。 もっと市政をオープンに市民に全てを公開し納得できる市政を推進していただくよう願望します。	駅北地区複合公共施設の計画を含めた、瑞浪駅周辺のまちづくりについては、これまでも広報みずなみや市ホームページ、市長と語る会等で情報発信を行ってまいりましたが、今後も引き続き情報発信に努めます。 駅北地区は、公共交通機関が集まる場所であり、より多くの方が訪れやすい場所です。ご意見にあるように、現在の図書館と比較して、自宅から離れてしまう方もあると思いますが、この立地の趣旨をご理解いただきますようお願いいたします。 新しい施設においても、親切かつ丁寧なサービスを心がけ、より気持ちよく利用していただくことができ、心の拠り所となることを目指してまいります。
2	現在、神社関係者大会等の市総合文化センターの使用は、社会教育法、市の条例により許可されていません。 これにより、持ちまわり開催を行っている東濃地区神社関係者大会(500人以上)を瑞浪市	新しい施設については、神社関係者の方も含め、より多くの方々に利用していただけるよう、施設の位置付けや、施設管理の条例を検討します。

	で担当する場合、関係者に苦勞をかけています。(廣池学園ホール、中仙道ミュージアム、ゴルフ場ホール等を使用) 東濃地区の各施設(明智かえでホール、東美濃ふれあいセンター、可児市文化創造センター、かもめーる、多治見市文化会館、土岐市文化プラザ等)が使用可能であるように新しい施設においては、新しい条例により使用可能になるよう御配慮下さい。 社会教育法の規定(23条2項)に抵触しない範囲で市条例で例外規定を設けるなど政党・選挙候補者に関することと同様の対応可能となるようよろしくお願いします。 詳細は記入しませんが改めて面談等お願いできれば幸甚です。	
3	東濃厚生病院に加え、文化センター、図書館が現在地から移転したら残された跡地はどうなるのでしょうか?とりわけ、文化センターは修理が終わったばかり。 図書館については、先頃の中津川市の例に見る様に、分断の原因になります。維持費が高いと聞きましたが、公共施設は、無駄なモノと考える思考は、問題があります。その為の税金ではないかと。 駅北は新設すべき広さは無く老朽化するのは、時間がたてば同じです。愚かさの繰り返しは止めて下さい。慎重に考えるべきと思います。	総合文化センターの後利用については、民間への移譲も含め、並行して検討しています。 また、現在の総合文化センターについては、最小限の耐震補強工事を行ったのみで、長寿命化につながるような大規模改修は行っていません。 さらに、稼働率の低い部屋等もあり、今後、長期にわたり、利用者ニーズにあった運営を、効率的に行うために、機能を集約した施設を駅北地区に整備することとしています。 整備する土地については、現在の駅北駐車場敷地や、地権者等の方々のご理解をいただきながら取得していきます。
4	現在の総合文化センターと合わせて計画してほしい。 新しく駅北に施設を作ったために現在の総合文化センターが大きな空き地になってしまっただけは事業として失敗です。そもそも現在の文化センターを改修や増築をして使えばよいのではないか、あるいは現在の文化センターの敷地で建て替えればよいのではないか、図書館は駅北へ移すが集会施設は現在の文化センターの場所に設置してはどうか、と	ご意見3の回答と同様です。

	いったことも考えられます。現在の文化センターをどうするかを決めなければ今回の基本計画は片手落ちとなってしまいます。	
5	コンセプトの「市民や東濃地域のサードプレイス」の意味が分かりにくい。 サードプレイスをあえて市が用意する必要があるのでしょうか。特に東濃地域のサードプレイスというもののイメージがわかりません。サードプレイスは個人が感じる場所であり、市がつくるものではありません。市は図書館をつくるならばその機能に集中して計画することが求められています。コンセプトとしては瑞浪市の課題の解決につながるものであり、「多様な人が集まるコンパクトで充実した図書館」ではないのでしょうか。そのコンセプトを実現するために図書館のしつらえや他の部屋の構成や廊下、階段のつくり方を工夫するのではないのでしょうか。	ご意見にあるとおり、サードプレイスとは、他者に決められるものではなく、本人がそう思えるかどうかで決まります。そのため、図書館を含めた施設全体のしつらえや運営を通じて、より多くの方が自分のサードプレイスだと感じていただけるような施設を目指します。 また、瑞浪市の玄関口である瑞浪駅に近接する立地であることから、市民の方だけでなく、近隣地域の方々にも利用していただくことで、交流人口の増加、新たな出会いや発見、まちの活性化につなげていきたいと考えています。
6	「機能融合型施設」について これについては基本的には賛成です。「異なる目的で訪れた人々の間に出会いと交流が生まれたような市民活動が育まれる」という考えには賛同し成果を期待します。 そこで提案ですが、資料を見ると計画地の中にひとつの施設を建てようとしているようですが、分棟形式にしてはいかがでしょうか。計画区域全体をひとつの公園としてとらえ、図書館棟、博物館棟、会議室棟、カフェ棟を配置し、それぞれの間を公園や園路として整備するということです。一つひとつの建物はそれぞれの目的と用途に応じた表情を持ち、お互いが見える距離、お互いの存在を感じる距離にいろいろな目的の人が行きかうことで多様性が生まれると思います。 3,000㎡を越えるような大規模な建物を1棟で建てようすると、法的な基準も厳しくなり、また大きな建設会社やコンサルタント	「異なる目的で訪れた人々の間に出会いと交流が生まれ、多様な市民活動が育まれる」ためには、施設全体を機能毎にはっきり分けるのではなく、それぞれの機能を、ゆるやかに区分された空間に配置し、空間の重ね使いをすることが必要であると考えます。それにより、より多くの出会いや交流が生まれるきっかけとなり、機能の融合が促進されると考えています。

	に設計を一任することになりますが、分棟であれば小規模で木造の準耐火構造などヒューマンなサイズで棟ごとにデザインを変えたりすることができ、市民の意見を反映しやすく、また工事費も融通が利きやすくなるでしょう。 また将来 PFI や Park-PFI などを検討する場合も棟ごとに出来るというメリットがあります。	
7	人がそこに来なくてもよい施設という考え方 たとえば放送局のような情報発信施設はいかがでしょうか。この施設に集まってきた情報を市内に配布されたラジオや SNS などを使って配信すれば、高齢者や各地域に暮らす人々にも声が届くようになり、市民全体が「いい施設を作ってもらえたな」という感想を持てただけだと思います。そうすればこの建物が瑞浪市の文化活動や情報発信の「象徴」となります。一つの施設を作ったときに、その場所に来なくても多くの人たちの心の中に新しいイメージを作り上げることは大切なことではないでしょうか。	新しい施設では、ご意見にあるような情報発信も力を入れて行っていきたいと考えています。 より多くの人に、この施設のことだけでなく、市民活動やイベントの内容、瑞浪市の観光や文化についても発信できるように取り組み、施設や活動の広がりを図っていきます。
8	展示機能に対する疑問 化石博物館や陶磁器資料館の収蔵品などのディスプレイを行うとしていますが、市のイメージとしての飾りをおこなっているのか、それとも何らかの情報発信をしようとしているのかわかりません。とにかく中途半端なことならやらない方がよいと思います。資料では「集会・交流機能」(P15)の中に入っていますが、むしろ「資料・情報提供機能」に入れて実質のある情報をディスプレイするべきではないでしょうか。	展示機能については、文化や歴史を知るきっかけとなるような情報発信ができればと考えています。その展示をきっかけに、化石博物館や陶磁資料館等へ誘導できるような仕掛けとしていきます。 ご意見のとおり「資料・情報提供機能」として整理します。

9	多目的ホールは別に計画したほうがよい。 現在、駅に南側の地域交流センターときわ内にも多目的に使用できるホールがあります。それをまた駅北側に図書館と一体で造る必要があるのでしょうか。多目的ホールを作るならば、たとえば最近人口も増え町の姿も変わってきた稲津、古い街並みを残しながらまちづくりを頑張っている釜戸、人口が多く何かと利便性が高い小田町や山田町、益見あたり、あるいは歴史のある日吉町、本郷などに建設するという方法もあります。土岐市の楽習舎が下石に、恵那市のかえでホールが明智町にあるように、新しい多目的ホールを作るならば駅周辺にこだわらず広い目を見た方がよいと思います。	多目的ホールの活動についても、新しい発見や交流のきっかけとなることを期待しているため、複合公共施設の中に整備することとしています。 様々な活動が、他の利用者の目に留まる機会を作っていきたいと考えています。
10	そもそも図書館の立地について 高齢者や子どもも含めた多くの人に利用していただき、新たな交流を生み出すことを期待するならば、やはり多くの人が住んでいるところに図書館をつくるのが妥当ではないでしょうか。また多くの人が昔から文教施設があった場所として認識しているような歴史のある場所が適していると思います。そうすると図書館の移転先は小田町の旧瑞浪小学校の跡地である中央公園が最適であると考えられます。もちろん私個人の意見ですが、市民の多くの方がそれぞれもっと適当な場所があるのでは、と思われているでしょう。敢えて瑞浪駅北に図書館を設けるというならば、市街地の活性化などという曖昧なものとは抱き合わせにするのではなく、きちんとした図書館建設にふさわしい理由が必要だと考えます。	より多くの人に利用していただきたいため、公共交通等が集まる、交通利便性の高い瑞浪駅の北側に整備することとしています。 徒歩では来られない人や、学生や高齢者等の自動車が運転できない人も訪れることができる施設となります。
11	人口減少、少子化、高齢化への対応について これらは利用者の姿や稼働率に直結する問題です。図書館に会議室や多目的ホールを抱き合わせて文化施設をつくる手法は昭和	ご意見にあるとおり、将来の人口減少等を考慮し、公共施設等総合管理計画では、市有施設の面積を30%削減することを目標としています。 そこで、新しい施設の貸室や多目的ホールについては、現在の利用状況を考慮した上で、効率的

	後期から平成初期の子供の数がまだ多い時期の手法です。少子化・高齢化が進み、たとえば市内の合唱団などに参加する人は激減しています。高齢者が俳句や絵画、歌などのセミナーなどは人気があるようですが、将来の変化は想像できません。公共の施設に集うことが少なくなっている今、多額の費用をかけて多目的ホールや会議室を並べることに疑問を感じます。せっかく作っても稼働率が悪くなる恐れがあります。前述の2、3、6のように分棟で民間の力を活用しながら時代のニーズに合わせた建物構成を考える必要があると思います。	に運用ができるよう、広さや機能を計画します。
1 2	図書館まわりの道のつくり方について 「日本の文化は道の文化」という言葉があります。欧米の都市では人々が広場に集まってくつろいだり楽しんだりしていますが、日本は道端でくつろいだり話をしたりしています。現在瑞浪市内の道路のほとんどが自動車中心に作られており、人がくつろいだり交差点で話をしたり、あるいは子どもが遊んだり水を打ったりするということがありません。 本計画の区域内にはいくつかの建物があり、緑地や駐車場、駅への通路などが計画されると思いますが、それらの人が通る区域内の「道」は非常に重要なものになってきます。 特に建物の陰になるような路地裏的な部分が人々の滞在や交流、新しい居場所を見つける格好の場所となるでしょう。現在の計画に園内の道に関する記述がほとんど見られませんが、ぜひこれからのまちづくりのお手本になるような「道」の計画を織り込んでいただきたいと思います。	施設の中だけでなく、外構やアクセス道路などにおいても、居心地が良い空間となるように計画します。 さらに、駅南地区を含めた瑞浪駅周辺が一体で整備されることとなりますので、「道」を含めた、まち全体が快適で歩きたくなる空間となるように計画します。

13	キーマンについて 公共施設とまちづくりを一体化して行う試みは建築関係の雑誌などによく取り上げられていますが、その試みが成功するのは必ず情熱を持ったキーマンがいるようです。コンサルタントは事業のノウハウなどには詳しいようですが、事業が成功するか否かはノウハウではなくキーマンの情熱にかかっているようです。今回はキーマンは登場しているのでしょうか。	駅北地区複合公共施設だけでなく、瑞浪駅周辺まちづくりには多くの方が関わってきており、事業進捗に伴いその数は増えていますので、多くのキーマンが存在していると考えます。 それぞれのキーマンが上手く連携し、より良いアイデアや活動が生まれるように、みなさんとともにまちづくりに取り組んでいきたいと考えています。
14	目次内 1. 事業の背景 「1-1」 のハイフンが、これのみ全角となっています。 P. 10 1行目 先頭の位置がおかしいです。 P. 11 19行目 先頭の位置がおかしいです。 P. 12 1～5行目 先頭の位置がおかしいです。 P. 13 15～18行目 先頭の位置がおかしいです。 P. 15 22行目 「資料情報提供機能」→中点が必要です。「資料・情報提供機能」です。 P. 19 ②機能配置 共有機能欄 「南北地下通路」→南北地下自由通路ではありませんか。	ご意見にある個所を含め、文章の体裁・誤字等を修正しました。
15	P. 14 16行目 「愛用されるよう工夫します。」→整備する設備を紹介する項目だと思いますので、「愛用されるよう工夫を凝らした一角を設けます。」といった感じで、他と同様に、どのような場所・空間にするのか、で結んだほうが良いかと思います。	ご意見のように、空間や施設に関する説明とわかるように修正しました。
16	P. 14 18行目 「調べ物や学びに」→仕事も含めたほうが良いのではないのでしょうか。	仕事での利用も想定されるため、文章に追加しました。
17	P. 14 22行目 閉架書庫について。「限られたスペースを十分に確保する」ということが、こういった状況を指すのか、個人的にはよくわかりません。	限られたスペースを効率的に活用するという意味です。表現を修正しました。

18	P. 17 3行目 文がどこで切れるのかよくわかりません。電車や徒歩で来館される方のルートと、車にて来館される方のルートを、それぞれ機能的かつ見栄えにこだわったものにする、ということでしょうか。	ご意見のとおりです。わかりやすくなるよう文章を修正しました。
19	P. 18 17行目 「②機能配置」について。ここまで、集会・交流機能のオープンスペース（階段・廊下等の活用）と、滞在・サロン機能のオープンスペース（憩いの場？）の2種類のオープンスペースが存在するように感じていましたが、P. 19 滞在・サロン機能欄にある「オープンラウンジ」が滞在・サロン機能のオープンスペースのことを指すのでしょうか。	「集会・交流機能」はオープンスペースを活用した取り組みにより発揮され、「滞在・サロン機能」はオープンスペースそのものがその機能を発揮すると整理しています。そのため、両機能の説明の中で、それぞれオープンスペースについて記述しています。 「機能配置」の表中の誤字等を修正しました。
20	P. 20 14行目 「受けることができる必要があります」→受けられる必要があります	ご意見のとおり修正しました。
21	男性も気軽に通えるホットヨガがあって欲しい。ヨガは男性の入会をお断りしているヨガスタジオが多い。男性が81.09歳、女性が87.14歳と平均寿命が長い中で、男女平等に体を動かして健康寿命を延ばす事ができる施設が欲しい。	様々な目的で利用してもらえるような企画を行いたいと考えます。民間事業者による運営とすることで、より利用者ニーズに合った運営とすることを目指します。
22	今年、名古屋から引っ越してきたが、瑞浪市は市バスが不足していると感じた。瑞浪駅を再開発しても、地域住民が気軽に瑞浪駅に行き帰る事ができるアクセス（市バス）がなければ、瑞浪駅に人は集まらないと考える。瑞浪駅は名古屋まで、JRで乗り換えなく行ける場所でもあり、仕事も通いやすい。土地は名古屋に比べて高くはなく、公共交通機関が充実したら若者世代が移住してくる可能性が増す。瑞浪駅から離れた場所に住んだとしても、市バスが発達していて、アクセスが良ければ、若い世代も瑞浪市に移住してくるのではないかなので、市バスを強化して欲しい。	コミュニティバスやデマンド交通等の公共交通施策とも連携し、より訪れやすく、便利なエリアとなるように検討を継続します。

	近年、高齢者による運転事故が多発し免許返納を促す社会情勢になってきている。高齢者が車がなくても、安心して暮らす事ができる町作りをするためにも、公共交通機関を充実させて欲しい。 今年、名古屋より移住してきて、瑞浪の住みやすさを実感しているので、再開発で今よりさらにいい市になるように期待しています。	
23	瑞浪市には一般が使えるパソコンを使ったワークスペースがありません。夜9時ぐらまで使えるワークスがあるとよいです。	新しい施設では、本の閲覧だけでなく、学習や、パソコンでの仕事等にも使えるような閲覧席や、電源、Wi-Fi 環境を整備します。 開館時間については、現施設より長い開館時間となるように検討します。
24	私は、小さい子が、遊べるところと、お昼ねが、できるところがほしいです。	小さな子どもが遊びながら、本や市民活動に触れるきっかけとなるような、キッズスペースを整備する予定です。
25	私は、ねながら本を、読むところがほしいです。	くつろいで本を読めるような場所等、さまざまな閲覧席を整備します。
26	一人で本を読める所がほしい	一人で集中して読書ができる、サイレントスペース等の空間も整備します。
27	私は、図書館に、寝転びながら本を読めるスペースがほしいです。 飲み物売り場などをいろいろな場所つくってほしいです。 1人で静かに読める所がほしいです。	思い思いの過ごし方ができる施設を目指します。また、皆さんからの要望が多い、飲み物等が買えるカフェ機能についても導入予定です。
28	お昼寝ができるスペースがほしいです。お勉強ができるスペースが欲しいです。	お昼寝ができる専用のスペースは整備できませんが、くつろいで過ごしたり、勉強ができたリするような施設を目指します。

29	私は、目が、見えない人でも、本を読めるスペースや、お昼寝が出来るスペースをつくって下さい。理由は、岐阜の図書館にいて、2つの場所が、あったからです。 ほかにも、運動ができるスペースや、小学生、中学生、高校生、大学生の、人が勉強できるスペースがほしいです。理由は、運動は、体に良いことだし、勉強とかは、未来につながるからです。	電子書籍等のデジタル技術の活用を含め、障がいのある人も利用しやすい施設とサービスの提供を目指します。 運動については、多目的ホールを利用した、軽スポーツ等を想定していますが、本格的なスポーツ等は、市民体育館や競技場を案内できるような窓口対応を目指します。 また学生だけでなく、社会人も勉強できるスペースを整備します。
30	1日ずーといられるところを作ってほしい。ごはんを食べるところを作ってください。	多くの人が、快適に利用できるような施設を目指します。また、施設内では飲食ができるようルール作りを行います。
31	本がたくさんあるへやに、こどもせんようの部屋が作ってほしいです。	児童書をそろえた、子どもが楽しく利用できるキッズスペースを整備します。
32	本が、好きじゃない人でも、楽しく本を読めるようにしてほしいです。理由は、岐阜市の図書館を見学して、いろんな人に来てほしいと思ったからです。瑞浪の文化を楽しみながら本が読める所を作ってほしいです。 理由は、瑞浪の文化を知ってほしいからです。子どもが、本の主人公の気分になって本が読める事ができるところがほしいです。理由は、子どもに本に興味を持ってもらうからです。	読書以外の目的の人も、ふらっと訪れることができるような、利用しやすい施設にしていきます。 さらに、子どもが興味の湧く本を多くそろえたり、瑞浪の文化等に触れるきっかけとなるような展示等を行う施設を目指します。
33	花畑がほしいです。川遊びができるところがほしい。ペットと遊べるところがほしい。	施設内で実現できることは限られますので、図書や情報発信を通じて、花畑や川遊び等、自分のやりたいことを実現する方法を見つけることができるような施設にしていきます。
34	瑞浪駅近辺の賑わいを気にする必要はない、また、既存施設まで来られない人は瑞浪駅までも来られない人が殆どではないか巨額の土地買収資金を支払ってまで駅に隣接した施設を作ることはない	瑞浪駅周辺は瑞浪市の中心部であり、多くの人が行きかう立地であるからこそ、魅力があり、にぎわっている必要があると考えます。また、そのにぎわいが各地域へと波及するように取り組んでいきます。新しい施設は既存施設より交通利便性が高い立地となりますので、訪れやすくなると考えています。

35	図書館内は静寂であって欲しい	既存の図書館のように、集中して読書等ができるような、静かな閲覧スペースも整備します。
36	既存施設を補修して利用するほうが良い 既存施設の補修利用ができない場合は、同施設を取り壊して同じ場所に新築すればよい (そのために一部の施設が数年間利用できなくなるのはやむをえない)	既存施設の補修にも多くの費用がかかる上、将来にわたり稼働率の低い施設も維持していくこととなりますので、建て替えを計画しています。 また、建て替えにあたっては、休館期間が無く、より利用しやすくするため、駅北地区が適していると考えます。
37	東濃厚生病院及び関連施設の全部または一部を「市の文化施設」に転用するよう、厚生連と協議するのが良い (転用すれば、新築物件を削減できる可能性がある)	公共施設等総合管理計画では、市有施設の総床面積の30%削減を目標としており、新たに東濃厚生病院の施設を文化施設に転用することは考えていません。 また、初期費用である建設費だけではなく、将来の維持管理費を含めた、ライフサイクルコストを考慮して計画しています。
38	学生がたむろする場所は別途考えればよい	学生だけでなく、多くの人が利用しやすい施設を目指しています。